

講壇点滴

教会の交わりに生きる

コリントの信徒への手紙一

一六章五〜二四節

牧師 姜 俔 米

コリントの信徒への手紙一の最後のところ
です。五〜二節には、パウロのこれからの
計画が語られています。パウロは今エフェソ
にいます。パウロは三回の大伝道旅行をしま
したが、今はその第三回目の途中です。使徒
言行録第十九章によれば、第三回伝道旅行に
おいて、パウロはエフェソに二年以上留まっ
て伝道をしました。パウロはこの町で伝道を
しながら、第二回伝道旅行で彼が土台を据え
たギリシャの諸教会と連絡を取り合い、その
中のコリント教会の様子を特に心配してこの
手紙を書いたのです。

さてパウロとコリント教会の交わりは、彼
が今いるアジア州の諸教会とコリント教会と
の交わりへと広げられていきます。一九、二
〇節は、アジア州の諸教会からコリント教会
への挨拶です。「よろしく」と訳されている
言葉は「挨拶する」という意味です。挨拶は
交わりの印です。パウロは、アジア州の諸教
会とコリント教会の間に、海を越えて、主イ
エス・キリストによる一致と交わりを打ち立
てようとしているのです。主イエス・キリス
トの教会はこのように、世界中に広がる諸教
会の交わりの中に置かれているのです。しか
し、海を越えて全世界へと広がっていくその

交わりの土台は、共に礼拝を守っている群れ
の挨拶にあります。

私たちは、礼拝においてこそ、自分がここ
に共に集まっている人々とのような交わりに
生きていくか、「聖なる口づけによって互い
に挨拶を交わす」ような交わりがそこにある
か、ということに常に振り返り、悔い改めを
与えられていくべきです。礼拝こそ信仰者の
交わりの土台であるというのはそういうこと
です。そして私たちの交わりがそのように礼
拝を中心とする交わりであればこそ、海の向
こうの教会にまでその交わりは広げられてい
くことができるのです。

教会の一致は、人間どうしが妥協して得ら
れるものではありません。教会の交わりは、人
間の親しきや好き嫌いによる交わりではあり
ません。そのように集まるのは「党派」です。
キリストの体である教会は、主イエス・キリス
トの十字架と復活による救いの恵みを告げ
知らせるみ言葉が語られ、その救いの印であ
る洗礼が授けられ、そして洗礼を受けて群れ
に加えられた者が聖餐においてキリストの命
によって養われていくところに成り立つので
す。この主イエス・キリストを愛し、従って
いくという要をほやかし、人間の思いのつな
がりを持ち込もうとすることに對しては、教
会にはつきりと「呪われよ」と宣言するの
です。それは誰か他の人を呪うためではなくて、
私たち自身が、主イエス・キリストを愛し、
礼拝することにおける一致と、世界の諸教会
へ広がっていく交わりに生きるためなのです。

(三月一九日 公同礼拝)

三月講壇一覽

第一主日(三月五日)

公同礼拝

「神の家族」

高橋和人牧師

詩編 一三三・一〜三

マタイ 一二・四六〜五〇

第二主日(三月一二日)

公同礼拝

「聞くには聞くが」

高橋和人牧師

イザヤ 六・八〜一〇

マタイ 一三・一〜二三

第三主日(三月一九日)

公同礼拝

「教会の交わりに生きる」

姜 俔米牧師

詩編 五七・一二

コリント一 一六・五〜二四

第四主日(三月二六日)

公同礼拝

「聖霊によって」

姜 俔米牧師

詩編 五・一二〜一三

使徒 一・一〜五

